

第2回長浜市教育振興基本計画策定委員会 会議録

I. 開催事項

1. 開催日時

令和2年3月16日（月） 午後6時00分～午後8時00分

2. 開催場所

多目的ルーム1（長浜市八幡東町632番地 長浜市役所1階）

3. 出席委員

委員 前田康一
委員 大橋松行
委員 小谷貴之
委員 伏木梨絵
委員 川瀬寛子
委員 草野佳代
委員 狩野翔平
委員 林智子

4. 欠席委員

委員 川瀬久栄
委員 田川重雄

5. 出席事務局職員

教育長	板山英信
教育部長	米田幸子
次長兼教育総務課長	岩田健
次長	横尾博邦
教育改革推進室長	土田康巳
教育指導課長	伊藤浩行
すこやか教育推進課長	大田久衛
幼児課長	大音洋
教育センター所長	野村幸弘
幼児課参事兼課長代理	富永裕子
教育総務課長代理	今井健剛
教育総務課主幹	西川洋輔
教育総務課主事	木野葵

6. 傍聴者

なし

Ⅱ. 会議次第

1. 開 会
2. 教育長あいさつ
3. 議 事
 - (1) 前回の会議録について
 - (2) 第3期計画に取り入れる項目について
4. 次回会議（第3回）について
5. 閉 会

Ⅲ 議事の概要

1. 開 会

2. 教育長あいさつ

教育長：皆さん、大変お寒い中、お集まりいただきましてまことにありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症対策でこれだけ長期間、突然学校を休校するという措置は私にとっても初めてでございます。恐らく現場の皆さんも戸惑いがあることと存じます。

この休校措置に入りましてから、時間があると学校園を中心に放課後児童クラブも含めて視察に行っております。

そこで、この機会だから見えてくるものもあるということを感じます。例えば、学校が課題を出さなければ自分で勉強することができない子どもたち、何をしたいかわからない子どもたち、よく考えてみたら子どもたちもこういう体験は初めてなのだろうと思います。

子どもたちにとってこれはもちろん不幸なことです、重要な体験にもなると感じているところでございます。

市議会でも議員の皆様にお伝えしたのですが、あるときこんな光景を目にしました。車で通っておりまして、おばあさんと小学生の中学年ぐらいの女の子が畑仕事をしていました。恐らくこういう経験というのは今まであまりなかったのではないかなというように感じているところです。

今、子どもたちの課題は様々なことが言われていますが、ぜひ委員の皆様にもこういった時期に子どもたちの実際の姿を感じて、考えていただいて、この教育振興基本計画案にも生かしていただければ幸いです。

最後でございますが、先日の土曜日に中学校12校、そして今日、中学校1校の卒業式を挙行了しました。来賓の出席はご遠慮いただくという中で、本当に少数の出席で行った学校がほとんどでございました。私も式場の体育館には入りませんが、体育館の外で出てくる子どもたちの姿を見ていましたら、涙を流しながら目を真っ赤にした姿も見られました。

恐らく本来の形の卒業式ではなかったという悔しい思いもあったのではないかと思います、これが彼らの人生にとって何らかの形でプラスになってほしいと思いました。

今週の木曜日に小学校が同じような形で卒業式をします。就学前の園も卒園式を予定しているところがほとんどでございます。

異常な事態ではございますが、子どもたちが元気な姿でまた4月から学校園に戻ってきてくれるように我々も全力で取り組んでまいりたいと考えています。

3. 議 事

(1) 前回の会議録について

委員長：それでは、事務局から事前に送付していただきました第1回会議録の内容につきまして、皆さん方から質問やご意見がございましたらお聞きしたいと思います。

委員：議事録の11ページにコミュニティ・スクールについて記載されていますが、地域学校協働本部というものの位置づけを長浜はこのように考えておられるのか聞きたいです。本来コミュニティ・スクールというのは学校運営協議会組織の中に入っていて、実動部隊として地域の方が協力してボランティアに出ていくというのが協働本部事業になると思います。コミュニティ・スクールと運営協議会本部事業の位置づけについてどのようにお考えなのかもう一度説明していただけないでしょうか。

この文言を読むと次の体制を検討していく必要があると書いておられるので、長浜市としてどういう位置づけで今後施行していくのかということが議事録の中から読み取れなかったもので、説明を加えていただきたいと思います。

事務局：地域学校協働本部の位置づけについて、まだ長浜市として明確には持ってはいないのですが、学校運営協議会の組織がさらにバージョンアップをしていったものが学校地域協働本部であるというイメージを持っています。地域の力もさらに巻き込んで、バージョンアップをする形で体制をよりよくしていくというイメージを現段階では持っております。

委員：コミュニティ・スクールと学校運営協議会の組織とはそもそもイコールであるということですね。

事務局：はい。そこからさらにバージョンアップをしていきたいと考えています。

(2) 第3期計画に取り入れる項目について

事務局から、資料に基づき概要説明があった。

◆基本目標1 乳幼児期における就学前教育を充実します

委員長：それでは、基本目標1につきまして意見交換に入りたいと思います。

委員：その前にこの資料について事務局に聞きたいのですが、この基本目標は第2期計画と全く一緒です。基本目標に書いてある言葉をそのまま踏襲するということ、本市の目指す教育の姿の基本方針も一緒ということで理解したらいいのでしょうか。

目標を踏襲するというについての議論は第1回目の会議でもありませんでしたし、まず冒頭に説明してもらえたらありがたいです。

事務局：前回会議の資料4の5ページで事務局からご説明をさせていただいてい

るのですが、今回から基本方針の部分につきましては、教育大綱として総合教育会議において協議、調整して策定するという形に変更になりました。現在同時進行で総合教育会議において教育大綱の内容を審議している途中でございます。

第2期計画を踏襲しながら決定していくという大きな方向性は出ていますが、最終確定はしておりません。文言修正などは出てこようかと思っておりますので、修正がありましたら、策定委員会へお返しして、ご説明をさせていただきます。

委員長：今のご説明ですと総合教育会議において決定されるということで、そこで検討されて最終的な決定がされるというように受け取ったのですが、この基本目標を前提にして今日は検討させていただければよいということでしょうか。それで、また基本目標が変わればその段階で新たに事務局のほうから提案いただいて、審議させていただくということでしょうか。

事務局：総合教育会議につきましては、市長部局の総合政策課が担当しております。会議の構成員である市長と教育委員で最終的に決定いただくわけですが、現在総合政策課と調整している段階では、大きな変更は考えていないということです。この方向でご協議を賜りたいと思っています。

委員長：それでは、基本目標1につきましてご意見をいただきたいと思っております。

事務局から説明がございましたが、基本目標の中の第3期計画に取り入れたい項目の部分が白抜きであった箇所は、今計画では盛り込まないということで理解してよろしかったですね。

事務局：はい、現時点ではそのように判断しております。

委員：文部科学省が新しい学習指導要領の中で園と小学校との連携を推進することを重要項目としており、小学校のスタートカリキュラムをつくれということで大きく取り上げて取り組みをしています。その中で、園と小学校との連携の推進というのを今回省かれたというのはどういう意図があるのでしょうか。

幼児教育というのは学びの基礎を培う時期であると言われております。その連携というのは一番のキーワードにしておられます。小学校とのつながりの学びに結びつくようなカリキュラムに変えてほしいということで今指導されているところですが、園と小学校との連携の推進というのを省かれた意図、それがどういうことかというのがまず1点です。

もう一つは、運動遊びの充実というのがなぜ活動意欲や社会性の基礎になるのかということです。文部科学省が示している学びの基礎というのは、多様な遊びを子どもたちが自らつくり出していく、遊びを主体的にやっていく、課題を見つけて自分たちで解決していくということだと思っております。

この2つの点について説明していただきたいと思っております。

事務局：園と小学校との連携の推進は、今回省いたということではなく、全ての部分で園と小学校との連携があり、そのような意味合いで、全ての項目に乗せていきたいと思っています。

現行計画策定時に項目として作成しにくかったということがありましたので、今回各項目の中に混ぜ込んでまとめさせていただきました。

委員：運動能力に関する市のパンフレットも見ましたが、あれが子どもたちの主体的な学びになぜ結びつくのかというのがよくわかりません。小学校でどのよ

うに発展的に接続していくのでしょうか。

例えば、多様な遊びを通して運動を好きな子を育て、そのことが小学校へ行ってもより主体的に自分たちで運動遊びをつくり出していくということなら意味はわかるのですが、パンフレットを見る限り、プログラムに基づいたトレーニングであり、自由性はありません。

第2期計画には、データを出して検証するとあります。検証した結果を第3期計画に活かすということならわかりますが、そこまでできているのでしょうか。それよりも子どもたちが自由に体を動かしながら主体的に遊ぶ、課題を見つけてみんなで協力し合いながら、どういう遊びをしようかと話し合いながら体を動かしていくことが今求められている遊びの姿ではないのでしょうか。

事務局：今ほどお話しいただきましたことは、就学前教育の根底にあるものですので、基本的に全てにおいて大事にしています。運動に特化している部分でもプログラムだけではなく、環境を通して運動的なことも含めて豊かに経験をしていくということと2本立てで行っています。

パンフレットにはプログラムのことが中心に書かれていますが、実際に湖北地域の子どもたちの運動能力を見たときに、日常の遊びだけでは他の地域の子どもたちの運動能力に追いついていけないという実態がありました。あえて意図的に帯でプログラムを入れていくことが必要ではないかと考えております。実際長い時間ではなく、1日に5分から10分間程度プログラムに取り組んでおり、あとの通常の保育ではこの運動遊びを日常の遊びと結びつけて取り組んでいるところです。

実証の部分ですが、県の運動能力調査を全園実施しており、少しずつですが数値は上がってきています。ただ、学習意欲とかやる気という心の部分にどうつながっていくのか実証する方法については悩んでいるところです。

子どもたちの運動能力の数値と、心の面での成長を全員評価して小学校につながるという取り組みも進めています。

来年度以降、実証方法については専門機関とも相談をして取り組んでいくつもりをしています。

委員：一人ひとりの特性に応じた支援体制の充実の部分で「支援」という言葉が出てくるのですが、この支援の具体的な内容を教えてください。

事務局：医療的に診察を受けている子、生育歴的に配慮が必要である子、外国籍の子、虐待を受けている子など、色々な意味で一人ひとりの支援体制が必要であると捉えております。

◆基本目標2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します

委員長：基本目標2についてご意見等ございましたら、お願いいたします。

委員：参考資料では、中学生がコンピューターなどを使って授業で活用したいという気持ちが全国よりも高いです。ところが、環境ができているかということと実態はそうではありません。小学校にも同じことが言えると思うのですが、ICTを使った授業改善を進めておられる先生の授業力が求められているときに、大変厳しい現状だと思います。長浜市は他市に比べ10年は遅れていると思い

ます。

タブレットや電子黒板を使い、今求められているICTを活用した授業をしていこうと思うと、長浜市は相当環境整備を進めていただかないといけません。

子どもの自立に向けて生きる力を育む中にもICTを使ったものを入れて、授業改善と結びつけて、これからの教育の部分にもきちんと位置づけて考えていただいたほうがいいのではないかと思います。

事務局：ICT機器の環境整備という点について、今何とかして追いついていこうと環境を整えていく動きを進めている最中でございます。国もGIGAスクール構想というものを昨年末に出され、本市としてもその構想に則って進めて行きたいと思っています。

今ほどの基本目標2の最初の項目の中に、情報活用能力と書いてあるかと思っています。学習指導要領の中で学習の基盤となる資質、能力の育成には、言語能力、問題解決能力、さらには情報活用能力がこれからの子どもたちには絶対必要な力であると言われていています。また、個々に応じた学びの最適化という文言もここに入れております。

いわゆる一斉授業学習スタイルの中から、情報量が圧倒的に多いこれからの時代に、子どもたち自らが情報を取捨選択しながら学んでいくためには、ICT機器は欠かすことができません。このGIGAスクール構想によると、令和5年度までに日本国中で一人一台端末を使って学習をするようになりますので、目指す教育というよりもそれがあることが当たり前になるという前提のものだという捉え方もしています。意図的にICTを進めるというような文言ではなくて、教えるから学ぶ、あるいは個別に最適化した学習、情報活用能力という言葉で表現をさせていただいたところです。

委員：参考資料に読書時間と書く問題への取り組みの意欲というのがありますが、長浜の子どもたちは全国と比べてかなり低いです。

言葉の力の育成と読書活動の充実は大変重要だと思うのですが、同時に書く力への文言を入れてはどうかと思います。

学力テストの資料を見ると、国語のB問題の成績が低かったです。それは読んで書くということができていないということであり、その力をつける部分の指導が必要ではないかと思います。県でもこの視点で取り組んでおられますので、長浜市もそれを入れてはどうかと思っています。

事務局：県も読み解く力という表現で強調していますので、そのあたりの文言を追加して、もう少し修正をさせていただきたいと思います。

委員：不登校の子どもと保護者の支援ですが、今実際に不登校や行き渋りの子どもたちがすごく増えていて、声をあげられるようになってきたと思っているのですが、現状でも支援施設に来てくれる子どもたちだけですでにキャパオーバーしていて、マンパワーも全然足りていない状態です。

今後5年間の計画を決めていくときに、不登校の子どもや保護者の支援については、現状どおりではこの先支援していけないと思いました。

この内容を読んだときにひっかかったところは、最後のところに児童・生徒の自尊感情を高め、学校、社会適応が進められるよう取り組みます、という部分でした。

適応指導教室だったり不適応や不登校というその言葉が、子どもたちを否定するような言葉であつたり認められていないと感じる子が多いので、学校適応とか社会適応というよりは、個々の多様な学び方とか選択肢が認められる言葉になって、意識としても個々が認められているということが伝わるような内容になればいいと思いました。

教育長：おっしゃるとおりです。子どもたちの社会的な自立を目標としていくことから考えると、不登校の子どもや保護者の支援の部分につきましては、内容を一度事務局で検討させてください。

委員のおっしゃった方向性は、私も全く同感でございますので、それを念頭に置いて修正させていただこうと思います。

委員長：資料の小学校・中学校の国語のところですが、全国レベルと比べてかなり差があると思いました。

こういうことに鑑みると、国語の力がこれだけ問題があるという状況の中で、国語教育を推進するという言葉が一つも出てきていないことに非常に違和感を覚えました。むしろ日本人であるならば国語というのは非常に大事なものでありまして、そこに力を入れないとほかの教育も成り立たないのではないかと思います。

英語をするにしても日本語がわからなければできないわけでありまして、そういうことを考えますと国語教育をもう少し重視していただきたいという思いがございます。項目として設けるかどうかは別として、それにかかわるような内容をどこかで盛り込んでいただければと思います。

もう一点、ICT教育は確かにいいのですが、最新技術を用いずに創造性とか自己肯定感といったものを育てるということも一方では大事だと思います。そのあたりもあわせて考えていかないと非常に偏った教育になってしまうのではないかと思います。バランスをとった形で教育をやっていただきたいと思います。

委員：きめ細かな指導の充実と学習方法の工夫改善という項目で、今カリキュラムマネジメントということが言われています。横の教科のつながりとかを考えていくにあたって、教育課程をどう編成するかが大事だと言われており、カリキュラムマネジメントというのが重要項目の中に入っていると思います。

カリキュラムマネジメントにかかわるような項目についてPDCAができていないということが問題です。

教育課程をどのように考えていくのかということの一つの柱としておくことが大事であり、教育課程の編成のことについて検討していくような視点があつたほうが、長浜の新しいこれからの教育にとって意義があるのではないかと思います。

事務局：地域の実態に応じた教育課程を縦と横しっかりと串を刺して新しいカリキュラムをつくっていくことについて、項目を起こして入れていきたいと思っています。

教育長：国語力ということをよく私も考えるのですが、今年の4月に開校する虎姫学園でも特別の教科で「ことば科」を新たに作りました。世田谷区が日本語科という特別な教科をつくっています。

これだけ英語教育も I C T も取り入れている中で日本語力をもう一度という考えに共感しまして、虎姫の小中一貫教育でも取り入れていく準備をしているところですが、書くということや国語教育について委員の皆さんの考えをお聞かせください。

委員：書くということは思考力を伴いますので、ものを書こうと思うと決断が必要です。思考力とともに判断力もつくし、相手に伝わるようにという相手意識を持って書くと表現力もついてくるということから、書くということは大きな核になる活動であると思います。虎姫学園が新しいこととしてそれを始められるというのは意義あることだと思ひ、言語能力を高めていくのにも効果があるのではないかと思います。

ただ、その授業だけで終わるのではなく、それがいろんな場面で活用されていって初めて本物になります。表現したり書いたりする活動が仕組まれていることによって効果を発揮すると思います。この視点は一番必要だと思いますし、賛成です。

委員：私も同感です。考えて書く、読む、小さい子どものうちから言葉遊びのような感じから始めていく。俳句は難しいですが、それに近いような感じで子どもたちの言葉遊びをするような方向へ持っていくと、そうした楽しみの中から国語力、表現力、考える思考力も徐々についていくのではないかと思います。

押しつけではなく、楽しみながらやっていく方法を、大人が考えていったほうがいいのではないかと思います。

委員：私も自分の経験から、毎日小学生のときに日記を書いていたことがありました。今の子どもたちを見ていると圧倒的に書く量が少ないと思います。中学生、高校生になったときに十分に書けなくなるのではないかと感じています。ある学校の先生に聞くと、50分の授業で原稿用紙10枚に書かせる訓練をされているとのことでした。スパルタ教育をする必要はないと思いますが、国語だけで養えるものではなく他科にもわたって連携していける国語力は必要だと思います。

委員：教員をしているときに、いろんな子どもがいましたが、子どもたちの気持ちを知りたいなと思ったときに、自分が話したり書いたりできるので子どもにもそれを求めていた部分がありました。子どもたちは一人ひとり得意な伝え方が違うので、方法はいろいろありました。言葉で伝えてほしいのですが、言葉が出てこない子も中にはいますし、書いて伝えるのが得意な子は日記でやりとりをして伝えてくれるし、書くのが苦手でも話すのが得意な子は私のところに来ておしゃべりして伝えてくれるということがありました。

何のために言葉が必要なのかと思うと自分の思いを誰かに伝えるため、伝え方はいろいろあるから、文章が書けることだけが全てではなく、自分にとってこの伝え方が得意だというのがわかるようになればいいと思います。

書ける・書けない、話せる・話せない、の評価だけではなく、自分にどんな方法が向いているかというのがわかるようになればいいと思いました。

私は子どもたちが何か言ってきたときに「何で」ということを必ず聞くようにしています。どうしてそれをしたいのかとか、どうしてそれが嫌なのかというのを伝えるときに、言葉が必要だと思うので、普段子どもと関わる中でも大

事にしたいと思っている部分です。

委員：書く力が必要な部分は多いと思います。私も今ある学校で教師をさせていただいていますが、作文が書けない子が年々増えています。授業の感想文を書かせても、200文字が書けるか書けないかという子もいます。

書くときに客観的に見て誰が読んでもわかるような書き方をしなさいと指導しています。それを説明しないと、主語も述語もなく箇条書きで終わってしまう文章しか書けない子がいます。そのあたりを含めて教育していただけないかと思います。

しゃべっていても肝心なところが抜けてしまって半分ぐらいしか伝わらないこともあります。伝え方とか国語力は必要だと思います。

教育長：色々な意見を頂戴しましたので、反映させた内容に修正をさせていただこうと思います。ありがとうございました。

委員：ICTの導入により、例えば中学校の3年間で、数学の時間がICTを活用することによって9カ月で終わってしまうようなことがあると聞きました。余った期間で子どもたちに何を学ばせるのかということまで考えておられるのかお聞かせください。

事務局：今ほどお話しされたのは、AIを駆使した学習形態のEdTech（エドテック）と呼ばれているものかと思います。ICT機器を導入して環境を整えたのと、EdTech教材を入れて学習をしたのとは少し違います。あくまでもツールを入れるだけですので、ICTを入れたからそこまで進度が速くなるというものではありません。

ただ、そのEdTechを入れておられる実証授業先では、学ぶことはスピーディーにでき、残った時間の中で創造的な活動やより発展的な学習を取り入れているという報告をいただいているところです。

委員：英語教育についてですが、ハワイで英語の先生をしている私の義理の兄が、何で日本はこんなわかりにくい英語の教え方をしているのだろう、こんな教え方はアメリカではしないと言っていました。

日本人の英語ほどわかりにくい英語はないと外国の方がおっしゃっているテレビ番組もありましたので、教育内容というか教え方自体を根本的に変えていかないと、上達していかないと感じます。

もう一つはローマ字読みがあるせいで英語がわかりにくくなっていると思います。子どもに簡単な英語を教えていたのですが、ローマ字読みを学校で習ってきたら混乱していました。長浜市だけの問題ではないと思うのですが、考えていただけたらと思います。

事務局：我々も国の学習指導要領に基づいて授業をしなければならないという根本はありますが、より楽しくということを基本に長浜市も特化して英語の教育を進めてまいりました。今ほどのご意見との融合が課題だと思いました。

委員：発音の問題があるからネイティブの方に来ていただいたというところがありました。

10年前にある方がこれでは英語の力はつかないという警告はされていました。

ローマ字と混乱するのも前々から言われていて、長浜市は小学校1年生から

英語活動をしています、それが4年生になるとローマ字が入ってきて一生懸命書いて覚えなければいけません。整理をする必要があるということだったのですが、なかなか進みません。

事務局：最終的には中学校の出口として、高校入試があります。読むこと、聞くこと、書くこと、話すこと、この4領域をしっかりとバランスをとって進めていくのがこれからの英語教育のスタイルだと思っております。

◆基本目標3 学校・家庭・地域のつながりを深め、地域全体の教育力の向上をめざします

委員長：基本目標3についてご意見等ございましたら、お願いいたします。

委員：児童虐待の早期発見と支援の充実となっているところですが、今虐待というものがすごくクローズアップされるような時代になってきて、何をもって虐待というかというのも人それぞれの価値観みたいなのところもあるのですが、虐待はだめという世の中の動きになってきているので、そのせいで助けてとか、しんどいですという声があげにくい世の中になっているのではないかと思います。

学校が休校になって2週間たつのですが、私は毎日、休校の子どもたちをお預かりする居場所をボランティアで来てくれる仲間たちと開けているのですが、2週間一人で留守番をさせていたり、小学校1年生の子どもが家にずっと一人でいて、ご飯も一人で食べているというような問い合わせがたくさんあり、全部受け入れる方向で動いています。

今、一人親家庭や核家族もすごく増えていますし、児童虐待だけに限らず困っておられるご家庭、どうしていいかわからず助けてと言えないご家庭が本当に増えていると実感しています。

この項目の中で虐待というものが主に書いてあるのですが、一人親家庭も支援の対象であると思いますし、お父さんが一人で育てておられるご家庭も生きづらさを抱えておられます。子どもに食事や衛生面でも行き届かない面もあるので、そういうことにも注目していけるような内容になればと感じました。

教育長：私も同感です。虐待とよく言いますが、最近私が読んだ本の中にマルチリトメントという言葉がありました。日本語に訳すと不適切な対応ということです。これは子どもだけの問題ではなく、その不適切な対応をしている保護者も同様で、負の連鎖ということもよく言われます。一人親家庭の問題も本当にそのとおりですし、また今回の議会では多胎児の子どもに対する支援への質問も頂戴していましたので、そのあたりの視点も教育委員会の範疇の中で、子育て支援体制について考えさせていただきたい。

委員長：情報モラル教育の推進ということでございますが、ここでは学校、家庭、地域社会が一体となったと書いていますが、この3つの主体では厳しいという思いです。この中に本来ならば行政も当然入ってくるでしょうし、企業も入っていただく。そして依存症になってしまっている子どもについてはWHOが病気と認定していますので医療機関との連携も必要ではないかと思います。

そういったものも含めたモラル教育の推進ということにならないと第2期計

画と変わらないと思います。連携の対象を増やしてネットワークを大きくしていくことが必要になってくると思いますので、そのあたり検討していただければと思います。

◆基本目標 4 地域の伝統・文化を生かし、郷土を愛する心を育てます

委員長：基本目標 4 についてご意見等ございましたら、お願いいたします。

委員：地域の伝統・文化を生かしとありますが、長浜が大々的にアピールされている文化財などを生かすということが郷土を愛する心を育てるのかというとは違うと思います。本来地域の中にある独自の伝統文化を大切にしていけることが必要です。

本来は郷土を愛するというのであれば、まず自分の足元の文化・伝統があると思います。そういうものを児童・生徒にも体験させていくという視点から育てていくほうがいいのではないのでしょうか。

事務局：教育や学びの視点での伝統文化学習について、どこかに入れられないか検討したいと思います。

委員長：資料の中で長浜市歴史文化基本構想について書かれており、私たちの生活に身近なところで色々な文化財等があると感じたのですが、地域づくり協議会が地元の文化財を活用しながら活動していくという視点もここで書かれていますので、これを考えていращやるのであれば、盛り込んでいただくことが必要だと思います。場合によっては地域の文化財を積極的に掘り起こして、これを地域の活性化や、子どもたちの生きた教材として使えるようなものに位置づけていければいいと思います。

せっかくの文化財が活用されないというのはもったいないので、教材として活用するといった生かし方もあるのではないかと思います。

委員：子どもたちに地域の歴史や神社仏閣や建物の話を大人がわかりやすくしてあげると、何かのきっかけでそこから興味が芽生えることがあります。

ある小学校では、毎年 6 年生が長浜市の観光スポット、歴史的な史跡をめぐる計画を立てます。子どもたちが時間割やコースを設定し、私たちボランティアガイドが連れて行きます。学校へ帰ったらそれぞれのグループがまとめて、5 年生の前で発表します。こういった取り組みを積み重ねることで、郷土を愛する心が芽生えるのだと思います。郷土の文化財、地域の伝統を知らなければ愛することができません。だから知るためのお話、勉強を大人が機会を捉えて伝えていくということが大切ではないかと思います。

◆基本目標 5 いつでも、どこでも、だれでも学びあえる生涯学習環境の充実を図ります

委員長：基本目標 5 についてご意見等ございましたら、お願いいたします。

委員：より高いレベルの文化芸術を市民が享受するような環境整備という視点から、その受け皿になる環境が整っていく必要があると思うので、よりよい施設の供給、建設も含めて考えていかないと、文化芸術に触れる機会が少なくなっ

てしまいます。そうすると子どもたちもどんどん環境の整った地域へ流出してしまいます。

長野県松本市は中部圏に一つの文化拠点をつくるというスタンスでまちづくりをしておられて、すばらしいホールがあります。これに賛同され、小澤征爾さんや一流の歌舞伎なども公演に来られる文化の拠点になっているそうです。ある程度高い水準のものを享受できるような環境整備というのもここに入れる必要があるのではないかと思います。

委員長：長浜市には1, 000人規模の文化ホールが無く、本格的な芸術を鑑賞するような環境にはなっていません。こういうことを項目に入れられる以上、少なくとも1, 000人規模の文化ホールが必要だと思います。市としても前向きに建設を考えていただければと思います。

教育長：昨年、京都大学の山中教授に講演に来ていただいた時に中学生、小学生の一部も参加させていただいたのですが、子どもたちの感想が違っていました。将来の夢を持ち始めた子もいました。最先端の一流というのは大変大事だと思いましたので、個人的な要望として、盛り込んでいただければと思います。

委員：公民館等の社会教育施設の整備の項目が消えているのは、もう整備が整ったからということでしょうか。

事務局：順次計画的に更新していくという方向性が決まっているということで、やめるということではなくあえて計画には盛り込んでいないということでございます。

委員：直営の施設は市に整備してもらえて、指定管理になった施設はそこでやるという形になるのでしょうか。

事務局：基本的には地域づくり協議会で指定管理をしていただくという方向の中で、今直営であるところも地元がまとめて管理するというのであれば、建て替えも含めて今後検討していかれると聞いております。

◆基本目標6 安全・安心で質の高い教育を支える環境を整備します

委員長：基本目標6についてご意見等ございましたら、お願いいたします。

委員：教員研修の充実というところで、資料を見ると教員が主体的に学ぶという部分に課題があります。学力の高い福井県や富山県では地域で学び合い、自主的な研修会を開く取り組みが今も残っていて、それが先生の資質向上にも寄与しているのだそうです。

そういう点でこの参考資料を見ると、長浜市の教職員の中に全国と比べてかなり課題があり、教員研修を見直す時期に来ているのではないかと考えています。

例えば、2年次、3年次研修という若い先生が参加する研修がありますが、本当に主体的に学ぶことになっているのでしょうか。

初心者研修から解放されていよいよ2年目から自由にやれるぞというようなところへまたこの研修が来ます。現場で即戦力でやっていただく必要があるというのはわかるのですが、このサイクルをある程度見直してはどうでしょうか。

地域で研修し合うようなことを仕掛けていこうということも書いてありまし

た。学校内で学び合うという試みはしておられますが、もう少し自由性のある縛りのない主体的な学びになるように改善してもらったほうが、教員の資質向上につながるのではないかと思います。

予算の都合もありますが、先進地で授業を見るということも効果があると思います。そのあたりを改善できるのは教育委員会ですから、その視点から変えていく必要があると思いました。

事務局：福井県は先生の教室と銘打って自主的な勉強会をしておられます。2年次、3年次研修もここ数年見直しをかけて徐々に減らしてきているところです。今年度、「未来を担う長浜っ子」育成プロジェクトのワーキングメンバーを集めておりまして、これからの自らが学ぶ教職員の走りとしていきたいと思っておりますし、今ほどのご意見も参考にさせていただきたいと思います。

委員：教職員研修の充実について、現状どおりとなっているのですが、私が思ったことは3つあり、1つは教師力を向上させる研修の充実とあるのですが、今高めるべきなのは教師力よりも人間力だと思います。

子どもたちが教室で、小学校だったら同じ先生から一日中授業を受けていて、おもしろいとか楽しいと思う先生だったら授業も楽しくなると思いますし、それでやる気も生まれてきます。この先生は僕らのことを思っていてくれて信頼できるなと思ったらクラスの雰囲気もよくなっていったりするので、もっと先生方も休みを取っていただいて、リフレッシュしたり、経験値を上げることに使うことが大事だと思います。人間力はそのまま子どもたちに伝わっていくと思います。

2つ目は、私も研修を受けに行った時に思ったのですが、残念ながら形だけの講義がありました。すごくおもしろかった、受けてよかったと思えた講義というのは時代に合った授業をしてくださった先生の授業でした。

今の時代の子どもたちに合った先生が求められていて、形だけの研修ではなく、本当に今生かせる研修というのをもっと増やすべきだと思います。

3つ目は、先生同士のコミュニケーションは大事だと思うのですが、それ以上に大事だと思っているのは視点を変えたコミュニケーションです。

先生同士、学校の中だけではなく、視点を変えて保護者や地域の方とのコミュニケーションの場が増えていくということがこれから大事なのではないかと思います。

(全体を通して)

委員長：それでは最後に、全体を通して何かご意見等ございませんか。

委員：学力と総合的な学習の時間の相関が出ているデータがあるのですが、総合的な学習の中で探究的な学習に取り組んでいる学校は学力が高いという結果が出ており、学習指導要領の総合的な学習の解説書にも明記されています。

総合的な学習の時間というのは、地域の課題に基づいた主体的な学習活動をするというものです。一つの核になる時間であると思います。

長浜市は今まで1時間しか総合的な学習の時間をしていませんでした。今回2時間になったと思います。今新しい学習指導要領が始まる時なので、この教育振興基本計画に対しても総合的な学習の中で探究的な学習というものをどの

ように位置づけていくのか、ぜひとも検討していただけたらと思います。

市内のある小学校から、総合的な学習の時間の年間計画を見てどのように改善していったらいいか指導してほしいという依頼がありました。学力との相関がかなり高いということがわかっているので、今回2時間になることから見直したいとのことでした。

計画の中に探究的な学習という言葉は何らかの形で入れることについて検討していただきたいと思い、データを提示させてもらいました。

4. 次回会議（第3回）について

事務局から次回会議の日程調整について説明があった。

5. 閉 会